『〈民主〉と〈愛国〉』

小熊英二著　新曜社

思想ににじむ こころの歴史

本書は戦争直後から60年前後までの日本人の精神史である。丸山真男、竹内好その他の知識人の思想を扱うのだから、知識人史のようにみえるが、そうではない。日本人がナショナリズムと公共性についてどう感じ取り、その感じをどのような言葉で表現したのか、これが真の主題である。

「高級な」言説が多々登場するが、著者のねらいはこれらの思想のなかににじみ出てくる「情」を明るみにだすことである。知識人とその言説は歴史的資料でしかない。理論的な語りのなかに表出される「情のうごめき」の歴史こそ、知識人をふくむ日本人の「こころの歴史」になる。著者は吸引力のある論客を扱いながら、のみこまれないで、冷静な距離をとることができた。主題の選択といい、叙述方法の工夫といい、まことに斬新である。近年の名著といえよう。

（今村仁司）

第2部門（人文・社会）

『磁力と重力の発見』（全3巻）

山本義隆著　みすず書房

新視点で説いた 画期的な科学史

小熊英二さん

おぐま・えいじ　慶応大学総合政策学部助教授、歴史社会学。1962年、東京生まれ。東京大学農学部卒、出版社勤務を経て同大学大学院総合文化研究科博士課程修了。著書に『単一民族神話の起源』（サントリー学芸賞）『〈日本人〉の境界』『インド日記』など。

新視点で説いた画期的な科学史

と、きわめて単純なことのようだが、著者は磁石の発見から遠隔力という概念の形成に至るまでの道筋を膨大な資料をもとにして説き明かしている。こういう視点で書かれた科学史は前例を見ないように思う。画期的な内容の労作である。

（中原佑介）

第3部門（自然科学）

【本賞】著編者に賞状と賞金100万円、賞品「パーカー・デュオフォールド」万年筆セット。出版社に賞状と賞牌（しょうはい）。

【特別賞】著者に賞状と記念品、賞品「パーカー・デュオフォールド」万年筆セット。出版社に賞状と賞牌。

このほか、本賞、特別賞の著編者には、大日本印刷株式会社から「北島賞」として金の懐中時計が贈られる。